



新機能と更新情報

次の表では、新機能に関連するコンテンツの更新、既存のコンテンツの変更、『Webex での Unified CM コール導入ガイド』で修正された重大なエラーについて説明します。

Webex アプリのアップデートの詳細に関して、メジャーアップデートと今後のアップデートのプレビューについては「[新機能](#)」のドキュメントを参照し、マイナーアップデートと Webex のバグ修正については「[リリースノート](#)」を参照してください。

日付	変更内容
2021 年 4 月 7 日	<ul style="list-style-type: none">• 「「コールを会議に移動する構成」という新しいセクションを追加しました（展開の章）。• 機能テーブルに次のエントリを追加しました。<ul style="list-style-type: none">• コールを会議に移動する（通話中の機能：デスクトップおよびモバイル）• 「概要」の章に、Webex が Unified CM とクラウドから構成をプルする方法に関する詳細を追加しました。• 「アーキテクチャ」セクションを改善しました。
2021 年 3 月 3 日	<ul style="list-style-type: none">• 中国および非中国展開用の APN の最小リリースを追加しました。• 通話中の機能の表に「通話録音」を追加しました。• 「概要」の章に、内部および MRA 導入用のアーキテクチャ図を追加しました。

日付	変更内容
2021年2月3日	<ul style="list-style-type: none"> • 索引の「ポリシーパラメータ」の項に次のパラメータを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • E911EdgeLocationWhiteList • EnableE911EdgeLocationPolicy • EnableE911OnPremLocationPolicy • 「「環境の準備」」の章に、プッシュ構成、ロケーションモニタリングおよびCisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST) に関する新しいセクションを追加しました。 • 追加機能の表に次の変更を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> • 追加機能の表の通話履歴のエントリに、コールエントリの削除と30日間の200コールの制限に関する情報を追加しました。 • 追加機能の表の通知の抑制エントリに、通話中および会議中の通知をミュートに関する詳細を追加しました。 • デスクトップとモバイルのロケーションモニタリングを追加しました。
2021年1月12日	<ul style="list-style-type: none"> • 索引の「ポリシーパラメータ」の項に次のパラメータを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • SoftPhoneModeWindowBehavior • DeskPhoneModeWindowBehavior • 「「環境の準備」」の章に、コールパーク構成に関する新しいセクションを追加しました。 • 「概要」の章で、機能の表が次のように更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 通話中の機能の表に次の機能を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • コールのパークと取得

日付	変更内容
2020年11月24日	<ul style="list-style-type: none"> • 索引の「ポリシーパラメータ」の項に次のパラメータを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • SelfCareURL • ShowSelfCarePortal • ShowCallAlerts • 「概要」の章で、機能の表が次のように更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 「追加機能」の表で、「Webex Teams でのコール」の行に次の注記を追加しました。 <p style="margin-left: 40px;">(注) 有料のコールライセンスを持っているユーザは、ダイヤルパッドにアクセスできません。無料のコールライセンスを使用している場合でも、他の Webex Teams ユーザに発信することができます。</p> • 「通話中の機能」の表で、モバイルの列に「セルフビューのミラー表示」を追加しました。 • 「展開機能」の表で、「iPhone および iPad での Apple プッシュ通知 (APNS) と Android での着信コールのプッシュ通知」の行に次の注記を追加しました。 <p style="margin-left: 20px;">(注) 中国の規制により、iPhone および iPad のユーザは、モバイルデバイスがロックされているときに着信コールに応答するためのスライドオプションを利用できなくなりました。代わりにアラート通知が表示されます。着信コールに応答するには、まず画面ロックを解除してから通知をタップする必要があります。</p> • 「展開機能」の表に「セルフケアポータルリンクの設定」(デスクトップおよびモバイル)を追加しました。

日付	変更内容
2020年10月29日	<ul style="list-style-type: none">追加機能の表に、「ダイヤル文字列への一時停止の追加」がモバイルでサポートされるようになったことを追加しました。マルチラインおよび Jabber 移行ツールのパラメータに関して、パラメータが Unified CM で選択可能なプリセットではないことを示す注記を追加しました。これらはカスタムパラメータとしてポリシーに追加する必要があります。

日付	変更内容
2020年9月30日	

日付	変更内容
	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表を再構成し、基本的なコール機能、通話中の機能、追加機能、展開機能を説明する4つの表に分けました。各表にはデスクトップとモバイルのサポートを示す列があり、一目でわかりやすくなっています。 • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • アプリからのビデオデバイスの制御（デスクトップ、通話中の機能） • コールオプションの簡略化（モバイル、追加機能） • Contact Center の統合（デスクトップ、追加機能） • Jabra ヘッドセットのサポート（デスクトップ、追加機能） • マルチライン（デスクトップ、通話中の機能） • Extend and Connect（デスクトップ、追加機能） • Dial via Office (DVO)（モバイル、追加機能） • バーチャル背景のカスタマイズ（デスクトップの展開機能） • 電話サービスの接続エラーとアクション（追加機能） • コール録音（追加機能） • ダイアルプランマッピング（追加機能） • 「環境の準備」の章に「Unified CM の機能要件」の項を追加しました。Webex Teams で使用可能にするために事前に設定する必要がある追加機能のサブセクションを追加しました。 • 「管理とトラブルシューティング」の章に、新しい項「Jabber 連絡先と共通設定を Webex Teams に移行するためのユーザの設定」を追加しました。 • 「ポリシーパラメータ」を「付録」に移動し、次の新しいパラメータを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices • RemoteInUsePresencePrimaryLineOnly • SelfCareURL • ShowSelfCarePortal • UserDefinedRemoteDestinations


日付	変更内容
	<ul style="list-style-type: none"> • EnableJabber2TeamsMigration • WebexTeamsDownloadURL <p>• 「展開」の章に「ユーザ用のバーチャル背景の設定」を追加しました。</p>
2020年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • コールオプションの簡略化（コールオプションの有効化/無効化と整理）：デスクトップの展開機能 • Androidでの着信コールのプッシュ通知（モバイル） • その他のコールオプション：デスクトップ • セルフビューのミラー表示：デスクトップ • 展開の章に、新しい項「プッシュ通知の設定と推奨設定」および「ユーザ用のコールオプションの設定」を追加しました。 • 環境の章の「ボイスメールの要件」で、Unified CM と Unity Connection のリリースを一致させることが推奨され、同じ認証タイプを使用する必要があることを明記しました。 • コールでサポートされるオプションとして、VDI版 Webex Teams を追加しました。
2020年8月10日	<p>「Webex ソフトフォンデバイスの作成と設定」の項で、モバイルソフトクライアントに緊急電話番号を設定する手順を追加しました。</p>

日付	変更内容
2020年7月30日	<ul style="list-style-type: none"> • XML 設定ファイルの手順のポリシーパラメータに「PreventDeclineOn HuntCall」を追加しました。 • 「UC マネージャプロファイルの作成」の項に、次の注記が追加されました。 <p>「一部の展開では、音声サービスと UDS ドメインの両方が必要になることがあります。ユーザの Webex Teams アカウントが Unified CM と一致しない場合、Webex Teams では、音声サービスのドメインのみからホームクラスタを見つけることはできません。この場合は UDS サーバを設定する必要があります。音声サービスドメインも、モバイルおよびリモートアクセス (MRA) のサポートと Expressway サーバの特定のために引き続き必要です。」</p> • 機能の表に次の情報が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 「画面共有は、ユーザがデスクフォンで応答している場合でも使用できます。電話機のユーザは、ビデオがサポートされていれば、電話機から共有画面を見ることができます。サポートされていない場合は、アプリで共有画面を表示します。」 (デスクトップの画面共有) • 「同僚を連絡先リストに追加するときには、そのプロフィールを編集して追加の電話番号を設定できます。これで音声通話やビデオ通話の発信時に新しい電話番号が表示されるようになるため、代替番号をコールすることも簡単です。」 (デスクトップおよびモバイルの連絡先)

日付	変更内容
2020年7月9日	<ul style="list-style-type: none">• 展開の章で、新しい項「Webex Teams でのボイスメールのアイコンインジケータ」を追加しました。• 「Unified CM での信頼されていない証明書の許可」の項に、次の段落が追加されました。「iOS デバイスでは、プライベートなエンタープライズ証明書を使用している場合、デバイス自体にカスタムのルートCAをインストールする必要があります。そうしないと、Webex Teams は SSO 承認 URL への移動に失敗します。」• 「Expressway 証明書 (MRA あり)」の項に、次の注記を追加しました。「MRA のシナリオでは、証明書は Expressway で検証する必要があるだけです。」• 「UC サービスを使用したサービスプロファイルの設定」の項で、SSO を使用しない場合にボイスメールサービスのログイン情報ソースを設定する手順を追加しました。• 「サービス検出オプション」の項で、サポートされるサービス検出方法に関する注記を更新しました。「シスコでは、内部環境と MRA 環境で SRV ルックアップをサポートしています。サービス検出により、クライアントは、エンタープライズネットワークの内部または外部にあるサービスを自動的に検出できます。クライアントは、ドメインネームサーバのクエリーを実行して、サーバの場所を提供するサービス (SRV) レコードを取得します。内部環境および外部環境について、以降の DNS SRV のガイダンスを参照してください。」

日付	変更内容
2020年6月28日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 連絡先の追加、連絡先の検索、コールする（デスクトップおよびモバイル） • 不在着信（デスクトップ） • Webex Teams コールのコール制御（デスクトップ） • コールピックアップ（デスクトップおよびモバイル） • 特定のアプリケーションの共有（デスクトップ） • ハントグループ（デスクトップおよびモバイル） • セキュリティで保護されたコールのロック記号（モバイルの展開機能） • ハントグループとコールピックアップを有効にするためのXML設定ファイルの設定方法について説明する新しいセクションを導入の章に追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • クライアント設定パラメータの設定 • クライアント設定ファイルの作成とホスト
2020年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 通話履歴コールバック（モバイル） • 通話の統計（モバイル） • Webex Teams コールのデスクフォン制御（デスクトップ） • 高解像度（HD）ビデオ（デスクトップ） • 電話機サービスステータスのヘルスチェッカー（デスクトップ）

日付	変更内容
2020年5月6日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能概要表に次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • サービス ドメインの自動検出 • 導入の章に、次のセクションを追加または更新しました。 <ul style="list-style-type: none"> • 「UC マネージャーのプロファイルおよびコール ビヘイビア ワークフロー」 (新規) • 「UC マネージャ プロファイルの作成」 (新規) • 「UC マネージャ プロファイルの編集」 (新規) • 「コール ビヘイビアと UC マネージャ プロファイル 制御ハブの設定」 (更新)
2020年4月30日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • シングル ナンバー リーチ (モバイル) • ボイスメール (モバイル) • 緊急コール (モバイル) • コール転送 (モバイル) • ビデオの共有を使用せずにコールに応答 (モバイル)
2020年3月20日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • オートゲインコントロール (AGC) (デスクトップ およびモバイル) • 会議コール (モバイル) • マージ (モバイル) • ビジュアルボイスメール (デスクトップの追加機能) • 「環境の準備」 および 「導入」 の章に、ビジュアル ボイスメールの設定要件が追加されました。

日付	変更内容
2020年2月27日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • コール待機（モバイル） • 転送（モバイル） • TEL、SIP、Click To Call のサポート（モバイル） • 制御ハブ ヘッドセットの管理（追加機能） • Cisco 700 ヘッドセットに関する以下の情報を追加しました。「Cisco 700 シリーズのヘッドセットを使用している場合、ユーザはUSBアダプタを使用してコールに応答、保留、再開するだけでなく、ミュートとミュート解除を行うことができます。」 • 新しいセクション「Webex 制御ハブのシスコヘッドセットの管理」を、「管理およびトラブルシューティング」の章に追加しました。 • 新しいセクション「コール用プロトコルハンドラ」を「概要」の章に追加しました。 • エラーが発生する前に削除された「ネットワーク要件セクション」を再び追加しました。
2020年1月30日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能概要表に次のエントリが Windows と Mac 用に追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • セキュアなコールのアイコン  をロックします。 • Cisco 700 シリーズ (Bluetooth) ヘッドセットのサポート。 • [ポップアウト コール (Popout call)] ウィンドウ。 • 一時停止をダイヤル文字列に追加します。 • 「Webex Teams でコールするためのライセンス要件 (ユニファイド CM)」では、有償のサブスクリプションが必要な場合に、ユーザアカウントを組織内で管理する必要があるため、ユーザアカウントは Webex でのコール (Unified CM) を使用する特定のライセンス割り当てを要求しません。

日付	変更内容
2019年12月20日	<ul style="list-style-type: none">• 機能の概要の表に、次のエントリが追加されました。<ul style="list-style-type: none">• モバイルプラットフォームの保留/再開。• デスクトップ、デスクフォン制御モード、およびモバイルのさまざまなデバイスで再開します。• モバイルプラットフォームの通話履歴。• 「ヘッドセットの要件」セクションに、次の注意事項が追加されました。「Webex Teams で Cisco ヘッドセット 500シリーズまたは Cisco ヘッドセット700シリーズヘッドセットを使用すると、ヘッドセットファームウェアが自動的に更新されます。ユーザは、更新が利用可能であることを知らせるメッセージをポップアップ表示し、更新後に確認応答することができます。」
2019年12月10日	<ul style="list-style-type: none">• 「環境の準備」の章にネットワーク要件情報が追加されました。• 「組織の SIP アドレスルーティングの設定」の項で、次の内容を追加しました。「*. example.comは、トップレベルドメインではなくサブドメインのみに一致します。」
2019年11月27日	<ul style="list-style-type: none">• デスクトッププラットフォームの機能概要テーブルに通話履歴が追加されました。• ネットワークの「DSCP 値を設定」すると、AF31 から CS3 にマーキングするシグナリング packets が変更されます。

日付	変更内容
2019年11月7日	<ul style="list-style-type: none"> • 機能の概要テーブルに次の機能が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • Webex Teams コール (Windows または Mac): ユーザは、自分の電話番号を使用して、またはWebex Teams コールを使用して発信するかどうかを選択できます。Webex Teams コールは、Webex Teams を使用している他のユーザにコールするための簡単な方法です。ユーザは、通話中に画面とホワイトボードを共有できますが、コールを保留にしたり、コールを転送したり、電話のコールでのみ使用可能な他の機能を使用したりすることはできません。 • SIP (URI) アドレスルーティング: コントロールハブで設定可能です。この設定では、Webex クラウドを介してルーティングされる SIP アドレスを決定できます。デフォルトでは、Webex サービス以外のすべての SIP Uri が、ユニファイド CM を介してルーティングされます。(新しいセクションとして、組織の SIP アドレスルーティングの設定を追加する。)
2019年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> • Unified CM 証明書 (MRAあり) では、Cisco CallManager 証明書への参照が削除され、次のメモが追加された： <p>「Tomcat証明書は、Webex Teamsが暗号化された呼び出しに対して有効になっている場合のセキュアSIPにも使用される (SIP OuthはMRAのデフォルトポート5091で動作する)。詳細については、このガイドの「暗号化されたコールの電話セキュリティプロファイルの設定」を参照してください。」</p> • Unified CM 証明書 (MRAなし) に、次の注記が追加されました。「Tomcat 証明書は、Webex Teams が暗号化されたコールに対して有効になっている場合にセキュア SIP にも使用されます (SIP Oauth はデフォルトポート5090で動作します)。詳細については、このガイドの「暗号化されたコールの電話セキュリティプロファイルの設定」を参照してください。」

日付	変更内容
2019年9月26日	<ul style="list-style-type: none"> • Webex のコール (Unified CM) 概要の機能テーブルに次の機能が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 表示時またはDNDが有効になっているときにコール通知を抑制します。 • Tel、sip、および clicktocall プロトコルのサポート。 • Outlook からのクリック通話のサポート。 • Cisco 500 シリーズヘッドセットのサポート • 新しいセクション「ヘッドセットの要件」を追加しました。 • 既知の既知の問題が削除されました。「Webex Teams はセキュアソフトフォンモードではユニファイド CM に登録されません。回避策として非セキュアモードを使用する必要があります。」セキュアモードがサポートされていないその他の不正な情報を削除しました。 • 暗号化コール用の電話機のセキュリティプロファイルの設定の SIP Oath 設定の固定手順。暗号化されたコールには、ユニファイド CM 12.5 (1) 以降が必要です。 • Webex での電話サービスの認証追加された注:「サーバアドレスと UC ドメインの両方が設定されている場合、オンプレミスでのみサーバアドレスがユニファイド CM に接続するために使用されます。DNS SRV による自動検出は無視されます。MRA の場合、サーバアドレスは無視されます。」
2019年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> • 新しいセクションとして、暗号化コール用の電話機のセキュリティプロファイルの設定を追加。 • ソフトフォンとデスクフォンの両方の制御モードでは、次の機能テーブルに新しいWebex のコール (Unified CM) 概要通話中機能を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • 会議 • マージ • 転送
2019年7月25日	<ul style="list-style-type: none"> • 自動検出を実行するかどうかを確認するには、[「Webex Teams で認証 (ckm With Webex Teams」)] コンテンツを使用して、ユーザ設定パスを表示します。

日付	変更内容
2019年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> Softphone モードの Webex Teams のマージおよび転送機能に関する限定的な利用上の免責事項を削除しました。(これらの機能は現在一般に利用できる)。
2019年6月27日	<ul style="list-style-type: none"> プレビューリリースの免責事項が削除されました。(Webex Teams (ユニファイド CM) のコールは公式に使用できます)。 Softphone モードの Webex チームに対して、マージおよび転送を限定された可用性機能として追加しました。 付録に新しいセクション ユニファイド CM 上で信頼されない証明書を許可する が追加されました。 証明書の要件と既知の問題に次の情報が追加されました。廃止された「署名アルゴリズム (sha-1 など) で発行された証明書は機能しません。Cisco Unified Communications Manager の『Administration Guide』の「証明書 (Certificates)」の章に記載されているように、サポートされているセキュアシグニチャ256アルゴリズムを使用する必要があります。」
2019年6月14日	<ul style="list-style-type: none"> ユーザの Webex の通話体験 で、「Hybrid Call Service ユーザのユーザ体験の変更」セクションに次の情報が追加されました。 「Webex デバイスが Hybrid Call Service に対応した場所として制御ハブで設定されている場合、ユーザは Webex Teams からダイヤルでき、そのコールは、受信側の発信者 ID としてそのデバイスの電話番号を使用して Webex デバイスで開始されます。」 証明書の要件 で、MRA 証明書の要件と再構成を3つのサブセクションとして追加しました。これは、ユニファイド CM 証明書 (MRA なし)、ユニファイド CM 証明書 (MRA)、および Expressway 証明書 (MRA) です。 ネットワーク内の DSCP 値の設定 で、QoS ポート範囲情報を修正します。以前は、オーディオストリームの場合は「16384~24574」、ビデオストリームの場合は「24575 to 32766」を読み取ります。ここでは、「16384~24575」と「24576~32676」をそれぞれ読み取ります。

日付	変更内容
2019年4月24日	<ul style="list-style-type: none"> • 再構成の要件セクション: Webex Teams (ユニファイドCM) 要件の各コールには、より簡単に検索できるようにするための独自のサブセクションが用意されています。 • 「導入」の章に新しいセクション (エンドユーザ用の Unified CM の設定 Webex でのコール(Unified CM)) が追加されました。
2019年4月10日	<ul style="list-style-type: none"> • デスクフォンの制御モードでのミーティング参加がコールフローに追加されました。 • 「要件」のセクションに次の点を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco ユニファイド Cm Administration > System > serverでは、ユニファイドCM サーバ名を FQDN として定義する必要があります。 • Sso を使用していない MRA の導入モデルと SSO を備えたユニファイドCMはサポートされていません。 • 現時点では、内部のみの自動検出をサポートしています。サービス ディスカバリにより、クライアントは自動的に企業のネットワークでサービスを検出することができます。クライアントは、ドメイン ネーム サーバのクエリーを実行して、サーバの場所を提供するサービス (SRV) レコードを取得します。 • サーバ情報を使用して、SRV レコードではなく設定として使用している場合は、ユーザの Webex Teams の電子メールアドレスは Unified CMのメールアドレスと一致する必要があります、少なくとも、ドメインが一致する前のユーザID部分と一致している必要があります。 • 「環境の準備」の章に Webex デバイスのハイブリッドコールの設定保持が追加されました。
2019年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> • ドキュメントの初期バージョン。

